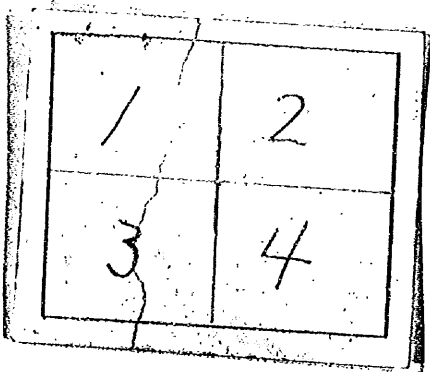


# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0194  
0195  
0196  
0197

47

3  
4  
世  
編

部  
隊  
原  
簿

部  
隊  
原  
簿

44A

3  
4th  
5/19/47

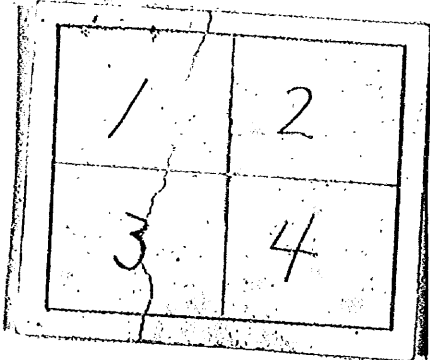
# 部隊原簿

第六三師團

部隊原簿

第六三師團

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0199  
0200  
0201  
0202  
0203

第四軍第六三師團 部隊名 第六三師團司令部(一) 通稱號 陣二九九一

郵便所名

全般概要	轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	員人編	別	隊長名 (内は先代を示す)	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動
一八、五、一、編成下令 一八、六、三〇、編成完結 (編成一五旅團を基幹とし、 於北京) (西師團) 一八、秋、 本行作業	二〇、二、四 假組隊五連 編成隊 六七名	自一九二二、一 至二〇、四、二 五 編歩八〇大 一八名	自一九二二、一 至二〇、七、 六三編通隊 一〇名	師團長 (中將、野副 昌徳) 中將 岸川 健一	遼 遼 天 奉 (屯官文)	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動 滿洲に飛行機を後り取入(一) 通信班の無線班五名北支にて所屬部隊還歸 (六三編通隊)	作業大隊より入「ソ」迄の變動 入「ソ」人員 滿洲残留
二〇、六、一〇、北支軍上 各部隊は夫々三〇%程度を 北支に及ぼし、至冬、特選部 隊に轉属せしむ	二〇、六、四、先發永井少 佐以下約四〇名(内司令部 二五名)四回同次で運送下 六、五	二〇、六、一、北支軍上 各部隊は夫々三〇%程度を 北支に及ぼし、至冬、特選部 隊に轉属せしむ	二〇、六、一、北支軍上 各部隊は夫々三〇%程度を 北支に及ぼし、至冬、特選部 隊に轉属せしむ	高級副官 中佐 坂島 末吉 少佐 林 吾夫 大尉 吉岡 益夫 中尉 倉本 通 少尉 立 倉 一 軍曹 片岡 英一 軍曹 熊谷 大 中尉 野中 大 少尉 於木 謙二	參謀長 (大佐 佐藤 貞一) 大佐 永井 浩一 參謀 森 知義 中佐 大原 晴海 通大尉 高橋 同少尉 矢澤榮藏 情中尉 小林信雄 同少尉 田中 暗通中尉 田中 准尉 磯 重雄 中尉 倉島 通	右 同 右 同	右 同 右 同	死 一名 逃亡 一名 入隊 二名
二〇、八、一、五、東支にて 終戦文官屯に降	二〇、八、一、四、東支に降 地占領	二〇、八、一、二、東支令に 依り奉天地区文官屯に移駐	ケ1 277名(30)	兵 器 (合を隊務勤器兵)	約60名	右 同	右 同	迎敵收容時勤務隊より 死亡 一名 逃亡 一名 入隊 二名

第六三師團司令部(一)

通稱號陣二九九一

郵便所名

隊長名		戦闘間	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ返の變動	收容所名	所人	死亡	満洲	計	歸還人員	状況不明者	
(内は先代を不) 師團長 中將 野副 昌徳 中將 岸川 健一		約60名 下兵 28 下兵 1	遼 通 天 奉 (屯官文)	戦闘間の状況及損耗	師團長及び行儀に依り軍部へ入ソ 通信班の無線班五名北投にて所屬部隊復歸 (六三團通信)	作業大隊より入ソ返の變動 佐官は復歸して別に編成した 林少佐の作業大隊として「ソ」連に入り作第一大隊とな 但し兵器勤務班は作第五十六大隊長大久保大尉の指揮に入 女子の軍馬四名は第四十四軍司令部に入つた	第二分所 約600 約12 約40	約600 約12 約40	約600 約12 約40	約600 約12 約40	約600 約12 約40	約600 約12 約40	約600 約12 約40	約600 約12 約40



第六三師團司令部(一)

通稱號陣二九九一

郵便所名

隊長名 (内は先代を示す)	職階	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソノ迄の變動	收容所		歸還人員	狀況不明者數	
						入ソノ人員	滿洲残留			
中將 野副 昌徳 中將 岸川 健一	參謀長 大佐 佐藤 貞一 大佐 永井 浩一 少佐 森 知義 中佐 高原 晴海 通大尉 高橋 同少尉 矢澤榮藏 情中尉 小林信雄 同少尉 田中 暗中尉 曾田 幸三 作中尉 磯 重雄 准尉 磯 重雄 中尉 倉島 通	遼 通 天 奉 (屯官文)	戦闘間の状況及損耗 この陣中、一連の激戦を経て、敵軍の侵入を喰ひ止めた。敵軍の侵入は、この陣中、一連の激戦を経て、敵軍の侵入を喰ひ止めた。敵軍の侵入は、この陣中、一連の激戦を経て、敵軍の侵入を喰ひ止めた。	終戦後の人員變動 この陣中、一連の激戦を経て、敵軍の侵入を喰ひ止めた。敵軍の侵入は、この陣中、一連の激戦を経て、敵軍の侵入を喰ひ止めた。敵軍の侵入は、この陣中、一連の激戦を経て、敵軍の侵入を喰ひ止めた。	作業大隊より入ソノ迄の變動 この陣中、一連の激戦を経て、敵軍の侵入を喰ひ止めた。敵軍の侵入は、この陣中、一連の激戦を経て、敵軍の侵入を喰ひ止めた。敵軍の侵入は、この陣中、一連の激戦を経て、敵軍の侵入を喰ひ止めた。	入ソノ人員 計	收容所名 オムクエック第八收容所(ニコシカ)	入 約12	死亡 より 約40	狀況不明者數
少佐 木村 勳 中尉 津木 恒太郎 少尉 鎌倉 和夫 准尉 長沼 善行 少尉 前川 勤 中尉 松井 克巳 同 酒井 克巳	高級副官 中佐 城島 吾夫 大佐 吉岡 益夫 大佐 吉岡 益夫 中尉 立 倉 善三 少尉 片岡 義一 軍曹 熊谷 大善 中尉 野中 幸三 少尉 鈴木 康二	右 同 右 同					アグマーダ第三四八收容所 一部人員は各分所に分散す 第二分所	600		
約60名 中尉 石井 克巳 少尉 酒井 克巳 中尉 松井 克巳 少尉 酒井 克巳	約7名 中尉 石井 克巳 少尉 酒井 克巳 中尉 松井 克巳 少尉 酒井 克巳									

入ソノ人員  
 計  
 約12  
 死亡  
 より  
 約40





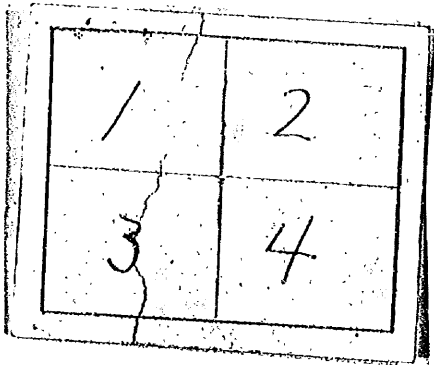
	部	副官	兵務隊 (合計)	経理 (勤務)	警備
高級副官 中佐 坂島 未吉 少佐 林 吾夫 大尉 吉岡 益夫 中尉 倉野 兼一 少尉 立 隆一 中尉 片岡 興一 軍曹 藤谷 大吾 兵頭 野中 孝一 尉官 鈴木 謙一	高級副官 中佐 坂島 未吉 少佐 林 吾夫 大尉 吉岡 益夫 中尉 倉野 兼一 少尉 立 隆一 中尉 片岡 興一 軍曹 藤谷 大吾 兵頭 野中 孝一 尉官 鈴木 謙一 大尉 高橋 敏夫 中尉 高橋 敏夫 少尉 高橋 敏夫 同少尉 高橋 敏夫 暗部中尉 高橋 敏夫 暗部中尉 高橋 敏夫 暗部中尉 高橋 敏夫 暗部中尉 高橋 敏夫	少佐 木村 勲 中尉 津木 恒太郎 准尉 鎌倉 和夫 少尉 鎌倉 和夫 中尉 鎌倉 和夫 少尉 鎌倉 和夫 中尉 鎌倉 和夫 少尉 鎌倉 和夫 中尉 鎌倉 和夫 少尉 鎌倉 和夫	主少佐 廣瀬 ハウカン 主中尉 曾和 主中尉 曾和 主中尉 曾和 主中尉 曾和 主中尉 曾和 主中尉 曾和 主中尉 曾和 主中尉 曾和 主中尉 曾和		
約50名	約50名	約50名	約50名	約50名	約50名
右同	右同	右同	右同	右同	右同
天彦 (竜宮文)	天彦 (竜宮文)	天彦 (竜宮文)	天彦 (竜宮文)	天彦 (竜宮文)	天彦 (竜宮文)

...  
...

...  
...の三島...  
...

アルマータ第三四 八牧客所 一部人員は各分所 に分散す	第二分所
600	
約12	
約40	

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0204  
0206  
0207

第四軍第六三師團 部隊名 第六三師團司令部 (二)

通稱號 陣二九九一

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人訓編	隊別	隊長名	開入 時員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ迄の變動	隊別 計	入ソ人員	滿洲残留				
二〇、九、一〇頃、存案第 一三六號(普通中隊を 隊へ改組) 二〇、九、一六、奉天出發 遼河橋入ソ 田邊時佐官は別行動 二〇、一〇、中隊「L」兵 に入 二〇、一、二〇、トナキ 兵隊の地獄アサキ收容所		十九年以降	十九年以降		別	(内は先代を示す) 醫中佐大河内三郎 (醫大尉 丹保司平) 醫大尉 小池壽幸 藥劑 岩崎 光一 曹長 菊池 勝 同 牧野 忠雄 同 宮下 金雄 伍 藤田銀一郎 手前石尾 況	約30名	約30名	右 同	右 同	右 同	右 同	遼 通 天 幸 (屯官文)	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	隊別 計	入ソ人員	滿洲残留
衛 兵 小 隊						(少尉立) 見士		右 同	右 同	右 同								
獸 醫 部						獸少佐 鈴木太郎 獸大尉 日比野忍 曹 山下 伍 宮下 手前石尾 況	10名 下兵3	右 同	右 同	右 同								
軍 醫 部							10名 下兵3	遼 通	天 幸 (屯官文)									

部隊名 第六三師團司令部(二)

通稱號 陣二九九一

郵便所名

人員制編		別隊		隊長名		戰鬥間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より入ソ迄の變動		入ソ人員		満洲残留		收容所		歸還人員		状況不明者数	
隊	長	名	戰鬥間	人員	駐屯地	戦時	戦時	戦時	戦時	戦時	戦時	戦時	戦時	戦時	戦時	戦時	戦時	戦時	戦時	戦時	戦時
衛兵小隊	(少尉立見士)		約30名	右同	右同																
獸醫部	獸少佐 鈴木太郎 獸大尉 日比野忍 伍長 山下 伍長 宮下 伍長 小林 伍長 小森		10名	右同	右同																
軍醫部	中佐 大河内三郎 大尉 丹保司平 大尉 小池泰幸 大尉 岩崎光一 大尉 菅野忠雄 大尉 萩野忠雄 大尉 宮下金雄 大尉 藤田銀一郎 大尉 石倉		10名	右同	右同	通達	天奉 (屯官文)														

1107.10.10 陸軍省  
陸軍省(陸軍省)  
陸軍省(陸軍省)

1107.10.11 陸軍省  
陸軍省(陸軍省)  
陸軍省(陸軍省)

1107.10.12 陸軍省  
陸軍省(陸軍省)  
陸軍省(陸軍省)

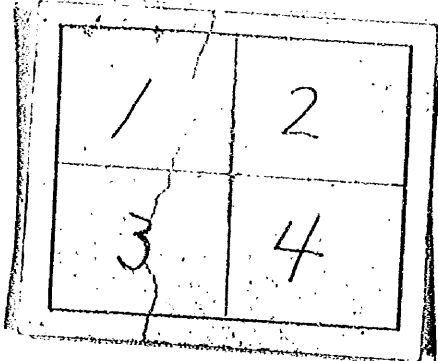
1107.10.13 陸軍省  
陸軍省(陸軍省)  
陸軍省(陸軍省)

衛兵小隊	隊醫部	隊部
(少尉立見士)	隊少佐 鈴木太郎 隊大尉 日比野忍 曹長 山下 伍長 宮下 隊長 小林 豊雄	(少尉立見士) 隊長 鈴木太郎 副隊長 日比野忍 曹長 山下 伍長 宮下 隊員 小林 豊雄
約30名	10名	10名
右 同	右 同	右 同
右 同	右 同	右 同





# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0200  
0209  
0210  
0211

第四四軍第六三師團  
部隊各步兵第六六旅團司令部  
通稱號陣一八八四  
郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人編		隊長名	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	入ソノ人員	滿洲殘留									
<p>一八、五、一、編成下令 一八、六、三〇、編成一五 旅團を基幹として師團編成 準備完成後(於、保定) 二〇、六、二六、編成軍 下隊となり北支隊定を出 發一日錦家屯に到着 二〇、八、一八、奉天文官 也にて武裝旅團長入ソノ 旅團吉岡大尉代行指揮す 二〇、八、二〇、平糶係に 收買、同地に於て師團主力 とす 二〇、八、二六、奉天北校 に於て 二〇、九、三、東北大學に 教授 二〇、九、四、作業第四大 隊に編入さる 二〇、九、一〇、奉天發見 有入ソノ 二〇、一〇、三、奉天發見 有入ソノ</p>		<p>一九、五、一、編成下令 獨歩七八六 一八名 自一九二一 至一九一〇 獨歩七九六 一〇名</p>	<p>一九、五、一、編成下令 獨歩七八六 一八名 自一九二一 至一九一〇 獨歩七九六 一〇名</p>	<p>156名 (7)</p>		<p>旅團長 少將 下枝 龍男</p>	<p>大尉 高岡 益夫 中尉 太田 英幸</p>	<p>中尉 黒岩 孝雄 大尉 北爪 義貞 教育をも兼任</p>	<p>准尉 溝井 (醫中尉 西島久蔵) 獨歩一三七大隊</p>	<p>中尉 米原 博 少尉 伊藤 博</p>	<p>中尉 黒江 有三</p>	<p>約14名(書記11 傳令15)</p>	<p>210名</p>	<p>屯家郷</p>	<p>奉天</p>	<p>旅團長は文官屯より飛行機にて單獨入ソノ</p>	<p>吉岡大尉第四作大長 黒岩中尉第四作大一中隊長 米原中尉第四作大第二中隊長</p>	<p>作業大隊より 入ソノ迄の變動</p>	<p>隊別計</p>	<p>二收容所 ウツリ</p>

隊名 歩兵第六六旅團司令部

通稱 號陣 一八八四

郵便所名

人員編成		隊長名 (内は先代を不詳)	戦時人員	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソノ迄の變動	入ソノ人員	隊別計	満洲残留	收容所		歸還人員計	状況不明者数
職	名										戦時人員	駐屯地		
旅團長	少將 下枝 龍男	210名	屯家郷	天奉							イ アルク ンク第一 二 收容所 ウ ンソリ			
大尉	吉岡 益夫	約14名	右同	右同										
中尉	大田 英幸	約14名	右同	右同										
中尉	黒岩 孝雄 北爪 義貞 教習をも兼任	約14名	右同	右同										
准尉	溝井 茂 (警中尉 西島久蔵) 獨歩一三七大隊	約14名	右同	右同										
中尉	米原 博	約14名	右同	右同										
少尉	伊藤 博	約14名	右同	右同										
中尉	黒江 有三	約14名	右同	右同										

二〇、八、七、社本兵隊部宛電より白紙子  
に連絡に出で爾後不明

米原中尉第四作大第二中隊

黒岩中尉第四作大一中隊

吉岡大尉第四作大長

旅團長は文官屯より飛行機にて單獨入ソノ

二〇、六、一六、陸軍部  
 下野隊となり北支隊定き出  
 陸軍部駐屯地に到着  
 二〇、八、一八、奉天文官  
 地にて武解隊編入「ソ」  
 後陸軍部大尉代行指揮す  
 二〇、八、二〇、平塚隊に  
 收容、同様に於て陸軍主力  
 とす  
 二〇、八、二六、奉天北隊  
 に收容  
 二〇、九、三、東北大學に  
 収容  
 二〇、九、四、作業第四大  
 隊に編入  
 二〇、九、一〇、奉天發見  
 柯察入「ソ」

約七六六  
 一八名  
 二〇、九、一〇、  
 約七九〇  
 約七九六  
 一〇名

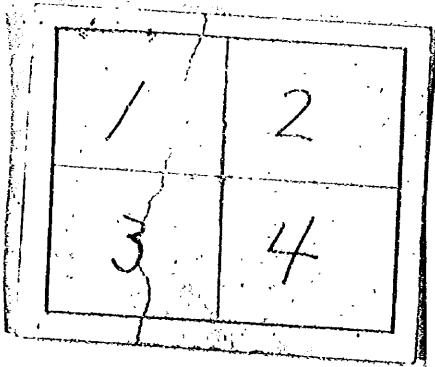
156名 (7)

奉 行	備 警	號 暗	信 通	務 庶	器 兵	官 副		
中尉 大塚傳一郎 將 1 下兵60	中尉 大塚傳一郎 (ケ) 准尉 將 1 下兵40	中尉 黒江 有三 將 1 下兵10	中尉 米原 博 少尉 伊藤 博 將 1 下兵70	准尉 溝井 中尉 西島久蔵 獨歩一三七大隊	中尉 黒岩 孝雄 大尉 北爪 義貞 教育をも兼任	大尉 高岡 益夫 中尉 太田 英幸 約14名 (書記11 傳令1)		約七六六
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同		宅家郷
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同		天 奉
			二〇、八、三、在本兵隊勤務中より白然子 に連絡に出る職務不明					
	大塚中尉第四作大第三中隊 長		米原中尉第四作大第三中隊 長		黒岩中尉第四作大一中隊 長	高岡大尉第四作大		

二名  
 ウシノリ

季行	備警	號暗	信通	務庶	器兵	官副		
中尉 大塚博一郎 將 1 下兵 60	中尉 大塚博一郎 准尉 將 1 下兵 40	中尉 黒江 有三 將 1 下兵 10	中尉 米原 博 少尉 伊藤 博 將 1 下兵 70	准尉 溝井 (中尉 西島久蔵) 獨歩一三七大隊	中尉 黒岩 孝雄 大尉 北爪 義貞 教育をも兼任	大尉 吉岡 益夫 中尉 太田 英幸	約14名 (書記11 傳令15)	210名
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同		志家郷
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同		天 奉
								二〇、八、上、辻本兵隊隊長也上り白旗子に連絡に出で爾後不明
								大塚中尉第四作大第三中隊
								米原中尉第四作大第二中隊
								黒岩中尉第四作大一中隊
								吉岡大尉第四作大
								二 次 答 書 ウ ツ リ

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0212  
0213  
0214  
0215

第四軍第六三師團 部隊名 獨立歩兵第七七大隊(一)

通稱號 陣二九九二

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人制編	別除	隊長名	關入	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	入「ソ」の變動	隊別計	滿洲残留	
<p>一四、七、二二、朝鮮成興 不於の編成完結、</p> <p>一四、一〇、北軍にて編成 一五、編成編成をもち進下大 隊となる。</p> <p>一八、六、三〇、編成一五 隊編成、その基幹となり 一六、中隊新編入(三五五 より)され六三師團の隷下 となり、依然七六と呼ば す(於、南口)</p> <p>編成、北軍進駐地区で保 定近郊の警備に任ず、尙各 隊作戦に四中隊より混成 一ヶ小隊(小島中尉長)參 加す。</p> <p>二〇、六、一三、關東軍に 轉用され保定近郊警備先遣 六、一五、國家近郊會 屯に到着す、此間約三〇 名調整、歩大に轉出す。 爾後日「ソ」國境近地に 在りて教育訓練須要中尉 以下約三〇〇名新設部隊 員として轉出す。</p> <p>二〇、八、九、日「ソ」開 戦と共に奉天防衛の作命を 受け東陵に向ひ列車移動中 八、一五、夕刻文官屯に於 て終戦を確認す、この間歩 兵中隊警備少尉六方軍 より轉属退去す。</p> <p>二〇、八、二〇、文官屯迄 兵隊にて自主的に式解す。 (LG15 G1300 目録の爲進行す) 尙武裝人員の變動なし</p>		<p>十九年以降 二〇、五、二四 現役 三〇、三 兵六〇</p> <p>一九、一 一五、一 現地召集將校 三、四 下士一 一九、一〇 内地補 二〇〇名</p> <p>一九、一 現役一七〇名</p> <p>二〇、三 至成隊 約一八〇名</p> <p>二〇、七、末 新設部隊 約三〇名</p> <p>二〇、三 教育終了後 約七九六 約一〇〇 其數約五〇</p>	<p>一九、八 以兵團ノ 下 兵六〇</p> <p>二〇、三 現役部隊 約四〇〇四五</p> <p>二〇、四、一五 内地部隊 將校 下 二</p> <p>二〇、四、一五 内地部隊 將校 下 二</p>	1283名	<p>大 隊 本 部</p> <p>中尉 磯ヶ谷晃夫 指曹長 名井金藏 見士 大島 道雄 見士 石原 經造</p> <p>中尉 廣瀬清衛門 曹長 尾形 芳衛 少尉 池上光之助 准尉 土野 三助</p> <p>(中尉) 横須賀 英 中尉 藤井惣四郎 曹長 矢口 益夫 見士 貞方 孝夫 准尉 市村政之助</p>	<p>關入 7 將准下17</p> <p>屯資金</p> <p>屯官文 (移動)</p>	<p>約42名 (正確)</p> <p>右 同</p> <p>右 同</p>	<p>約135名</p> <p>右 同</p> <p>右 同</p>	<p>277名 (正確)</p> <p>右 同</p> <p>右 同</p>	<p>約135名</p> <p>右 同</p> <p>右 同</p>	<p>135 (正確) 合轉属者20名)</p> <p>右 同</p> <p>右 同</p>	<p>戰鬥間の状況及損耗 一九、秋より本部直轄として行李運送、作 業並計一七〇名を別々各中隊より編成して いたが東軍大隊にて夫々復歸す。</p> <p>終戦後の人員變動 奉天に於て入院三名</p> <p>作業大隊より 入「ソ」迄の變動 作業第六大隊本部の基幹と なる。 (不足分各中隊より二名)</p>	<p>24</p> <p>約135名</p> <p>約135名</p> <p>927名 (正確)</p> <p>132名 (正確)</p>	<p>なし</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>奉天入院 者二名 (不確實)</p>



部隊名 獨立歩兵第七七大隊(一)

通稱號 陣二一九九二

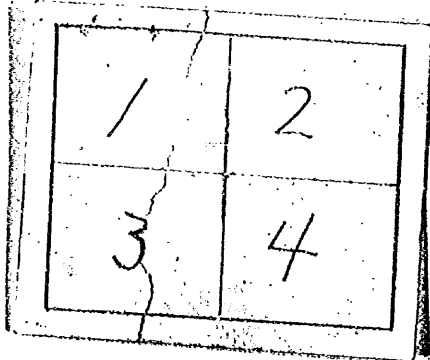
郵便所名

1283名		員人制編	
中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大
(中尉) 横須賀 英 (中尉) 藤井惣四郎 曹長 矢口 益夫 見士 貞方 孝夫 雅尉 市村政之助	中尉 廣瀬清衛門 曹長 尾形 芳衛 少尉 池上光之助 准尉 上野 三助	中尉 磯ヶ谷晃夫 指曹長 名井金藏 見士 大島 道雄 見士 石原 經造	(隊長) 石野 武 (内は元代を不す) 副官 横須賀 英 中尉 原 一郎 (中尉) 加瀬 博 (少尉) 花田昌二 (少尉) 都築勇夫 主中尉 萩谷不二雄 隊少尉 藤井竹松 (人) 准尉 上原文計
135 (正確) (不含轉屬者20名)	約135	277名 (正確)	約135名 (正確)42名 將 7 准下17
右 同	右 同	右 同	屯資金 屯官文 (移動)
右 同	右 同	右 同	戰鬥間の状況及損耗 一九、秋より本隊直轄として行季通信、作業班計一七〇名を別々の中隊より編成していたが東北大隊にて夫々復歸す
全實地よりの移動の前後に於て他部隊への轉屬約二〇名(確實なるは子開書以下二名、其他に入院中の者にして部隊歸屬不明なるものがある)			終戦後の人員變動 奉天に於て入院二名
作業第六大隊第三中隊基幹「ブラチエ」にて入院一名	作業第六大隊第二中隊基幹	作業第六大隊第一中隊基幹となる	作業大隊より入「ソ」返の變動 作業第六大隊本部の基幹となる (不足分全中隊より一二名)
132名(正確)	約135名	約135名	24
	927名(正確)		
奉天入院者一名(不確實)	なし	なし	満洲残留 なし
マカリオ第三一分所	マカリオ第三一分所 容所第六分所	チマ特別病院	收容所名 マカリオ第三一分所 容所第三分所
(三中より約125)	154(正確)	40入院(正確)	員所人 死亡 約60(内三中生駒曹長 小川上等兵死亡)
	20名	4名	満洲より領計 者 状況不明 数

二〇、八、九、日「一」開戦と共に奉天防衛の作命を受け、東段に向ひ列車移動中、八、一五、夕刻文官屯に於て終戦を確信す。この間非兵隊中隊長野呂少尉六方面より轉属進及す 二〇、八、二〇、文官屯並兵隊にて自主的に武解す <b>LG15 G1300</b> (自衛の爲進行す) 尙武解遊人員の變動なし				
一八、六、三〇、陽江一五 陽江隊、その基幹をなす (一)中隊新五(八)三五五 (二)中隊新六(九)三五五 となり、後、七六、七六、二 等(於、商口)	一八、六、三〇、陽江一五 陽江隊、北京運送地区に奉 定近郊の陽江に在り、前各 隊作務に任中隊より選出 一ヶ小隊(小島中隊長)を 加す	二〇、六、一三、陽江東へ 移用され奉天近郊陽江に奉 定(六)一五、陽江東近郊金 屯に到着す、此間約三七〇 名現存、歩大に轉出す 爾後「二」四隊迄陽江に 在りて、陽江近郊陽江中隊 以下約三〇〇名新設部隊 員として轉出す	二〇、八、二〇、文官屯並 兵隊にて自主的に武解す <b>LG15 G1300</b> (自衛の爲進行す)	一八、六、三〇、陽江一五 陽江隊、北京運送地区に奉 定近郊の陽江に在り、前各 隊作務に任中隊より選出 一ヶ小隊(小島中隊長)を 加す
一八、六、三〇、陽江一五 陽江隊、北京運送地区に奉 定近郊の陽江に在り、前各 隊作務に任中隊より選出 一ヶ小隊(小島中隊長)を 加す	一八、六、三〇、陽江一五 陽江隊、北京運送地区に奉 定近郊の陽江に在り、前各 隊作務に任中隊より選出 一ヶ小隊(小島中隊長)を 加す	二〇、六、一三、陽江東へ 移用され奉天近郊陽江に奉 定(六)一五、陽江東近郊金 屯に到着す、此間約三七〇 名現存、歩大に轉出す 爾後「二」四隊迄陽江に 在りて、陽江近郊陽江中隊 以下約三〇〇名新設部隊 員として轉出す	二〇、八、二〇、文官屯並 兵隊にて自主的に武解す <b>LG15 G1300</b> (自衛の爲進行す)	一八、六、三〇、陽江一五 陽江隊、北京運送地区に奉 定近郊の陽江に在り、前各 隊作務に任中隊より選出 一ヶ小隊(小島中隊長)を 加す
1283名				
第六隊本部 (中尉) 磯ヶ谷見夫 (少尉) 藤原武夫 (少尉) 藤井竹松 (中尉) 藤原武夫 (少尉) 藤井竹松 (中尉) 藤原武夫 (少尉) 藤井竹松 (中尉) 藤原武夫 (少尉) 藤井竹松	第一隊中 中尉 磯ヶ谷見夫 指揮長 名井金藏 見士 大島 道雄 見士 石原 經造	第二隊中 中尉 廣瀬清衛門 曹長 尾形 芳衛 少尉 池上光之助 准尉 上野 三助	第三隊中 (中尉) 横須賀 英 中尉 藤井惣四郎 曹長 矢口 益夫 見士 真方 孝夫 准尉 市村政之助	第四隊中 中尉 小島 輝彦 曹長 岩崎 清一 見士 淺和 政吉 見士 鈴木 政吉
7名 (正確) 27名 (正確)	約135名	約135名	135名 (正確) (不含轉属者20名)	約135名
(正確) 42名	右 同	右 同	右 同	右 同
(正確) 27名	右 同	右 同	右 同	右 同
奉天に於て入院二名 轉属者二〇名(確實なるは子爵曹長以下一 二名、其餘は入院中の者にして転属屬不 明なるものである)	奉天に於て入院二名	奉天に於て入院二名	奉天に於て入院二名	奉天に於て入院二名
作業第六大隊第一中隊基幹 となる	作業第六大隊第一中隊基幹 となる	作業第六大隊第一中隊基幹 となる	作業第六大隊第一中隊基幹 となる	作業第六大隊第一中隊基幹 となる
24	約135名	約135名	135名 (正確)	約135名
27名 (正確)	927名 (正確)	927名 (正確)	927名 (正確)	927名 (正確)
なし	なし	なし	奉天入院者二名 (不確實)	奉天入院者二名 (不確實)

隊 中 四 第	隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 六
中尉 小島 輝義 曹長 岩崎 清一 見士 浅和 政吉 見士 鈴木 政吉	(中尉) 横須賀 英 中尉 藤井 惣四郎 曹長 矢口 益夫 見士 貞方 孝夫 准尉 市村 政之助	中尉 廣瀬 清衛門 曹長 尾形 芳衛 少尉 池上 光之助 准尉 上野 三助	中尉 磯ヶ谷 晃夫 指曹長 名井 金藏 見士 大島 道雄 見士 石原 憲造	(中尉) 加藤 謙 (少尉) 花田 昌二 曹長 都築 勇夫 主中尉 萩谷 不二雄 少尉 藤井 竹松 (人) 准尉 上原 文計
約135名	135 (正確) (不含轉屬者20名)	約135	277名 (正確)	約135名
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
	金賣地よりの移動の跡に於ては、部隊番号の 轉屬約20名(確實なるは子團曹長以下一 二名、其他に入院中の者にして部隊番号不 明なるものである)			
	奉天に於て入院二名			
作業第六大隊第四中隊基幹	作業第六大隊第三中隊基幹 「ブラゴエ」にて入院一名	作業第六大隊第二中隊基幹	作業第六大隊第一中隊基幹	作業第六大隊第一中隊基幹
約135	132名 (正確)	約135名	約135名	24
		927名 (正確)		
	奉天入院 者二名 (不確實)	なし	なし	なし
	マカリオ第三一收 容所第一分所	マカリオ第三一收 容所第六分所	チマ特別病院	マカリオ第三一收 容所第三分所
7	250 (正確) (三中より約125)	154 (正確)	40入院 (正確)	
		20名	4名	約60 (内三守生 小川上等兵)

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0218  
0219

第四四軍第六三師團 部隊名 獨立歩兵第七七大隊(二)

通稱號 陣一八九九二

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員入制編	
<p>二〇、八、二二、砲大橋に 移駐、尙當時師團司令部は 平塚堡に位置す</p> <p>二〇、八、二九、砲大橋出 發奉天に向ふ</p> <p>二〇、八、三〇、北陵大學 に入所收容所校の軍刀を除 き他は完全に武解を受く</p> <p>二〇、九、九、作業第六大 隊の基幹として編成</p> <p>二〇、九、一三、出發上野 河(九、二四)一ノツエ (一〇、一)一ノツエ(一 〇、九)</p> <p>マカオ第三收容所第三 分所に入所す</p> <p>本編成の外、作業隊(約五 〇)通信班(八〇)行李 (約四〇)あるも該属は依 然各中隊にある爲別に列上 せず、尙本編成は東北大學 にて夫々中隊に復歸せり</p>		十九年以降	十九年以降		
別隊		隊長名		戰鬥間の状況及損耗	
隊中砲兵歩	隊中銃關機	隊中五第	(内は先代を示す)	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動
<p>中尉 佐野 汪</p> <p>少尉 長野 藤吉</p> <p>曹長 谷藤 藤吉</p> <p>見士 松本 十三生</p> <p>准尉 工藤 正衛</p>	<p>少尉 柳 一郎</p> <p>曹長 大川 正夫</p> <p>見士 内山 吉郎</p> <p>曹長 菊地 正吉</p>	<p>少尉 菊地 利通</p> <p>軍曹 峰岸 七郎</p> <p>少尉 平林 喬仁</p> <p>見士 庵谷 政次</p> <p>曹長 藤田 賢</p>	約114	約114	約135
約114	約114	約135	關人	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗
右同	右同	電資金	平時	屯官文	終戦後の人員變動
右同	右同	(移動)	戰時		
なし	なし	なし	なし	なし	なし
作業第六大隊の六中隊に 分隊編入	作業第六大隊第六中隊基幹	作業第六大隊第五中隊基幹	作業大隊より 入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員	滿洲残留
約114	約114	約135	隊別計	なし	なし
なし	なし	なし	收	收	

部隊名 獨立歩兵第七七大隊(二)

通稱號 陣一九九二

郵便所名

編制人員		別隊		隊長名		戰鬥間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より入ソノ人員		滿洲殘留		收容所		歸還人員		状況不明者数	
隊	長	別	隊	別	名	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソノ人員	滿洲殘留	收容所	歸還人員	状況不明者数							
第五中隊	少尉 柳 一郎	約135	屯寶全	戰斗間の状況及損耗	なし	作業第六大隊第五中隊を移	約135	なし	なし	約135	7名	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
機關銃中隊	少尉 大川 正夫 曹長 内山 吉郎 見士 菊地 正吉	約114	右 同	戰斗間の状況及損耗	なし	作業第六大隊第六中隊を移	約114	なし	なし	約114	7名	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
步兵中隊	中尉 佐野 注 少尉 長野 藤吉 曹長 谷藤 藤吉 見士 松本 三生 准尉 工藤 正衛	約114	右 同	戰斗間の状況及損耗	なし	作業第六大隊の六ヶ中隊に分散編入	約114	なし	なし	約114	7名	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

二〇、八、三〇、北陸大学  
入部攻勢隊の兵力を  
二〇、九、九、作楽第六大  
隊の基幹として編成  
二〇、九、三〇、出雲上原  
河入九、二四、一、マサキ  
二〇、一〇、一、マサキ  
二〇、九、九、  
マサキ第三收容所第三  
分所に入所す

隊中砲兵歩		隊中銃騎機	隊中五第
中尉 佐野 淳 少尉 長野 藤 曹長 谷藤 三 見士 松本 生 准尉 工藤 正衛		少尉 柳 一郎 曹長 内川 正夫 見士 菊池 正吉 曹長 菊池 正吉	中尉 林 七郎 少尉 平谷 守 見士 藤谷 政次 曹長 藤田 政次
約114		約114	約135
右同		右同	右同
右同		右同	右同

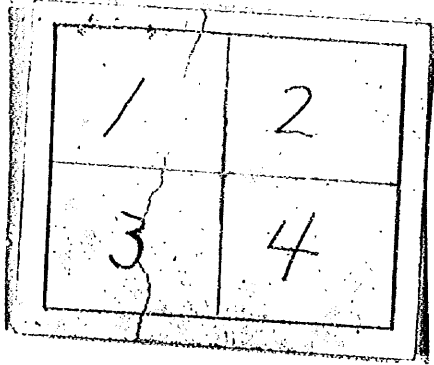
作楽第六大隊の六ヶ中隊に  
分隊編入  
作楽第六大隊第六中隊編成

隊中砲兵歩		隊中銃騎機	隊中五第
中尉 佐野 淳 少尉 長野 藤 曹長 谷藤 三 見士 松本 生 准尉 工藤 正衛		少尉 柳 一郎 曹長 内川 正夫 見士 菊池 正吉 曹長 菊池 正吉	中尉 林 七郎 少尉 平谷 守 見士 藤谷 政次 曹長 藤田 政次
約114		約114	約135
なし		なし	なし
なし		なし	なし

	隊中砲兵歩	隊中銃關機	隊中五第
	中尉 佐野 登注 少尉 長野 吉 曹長 谷藤 藤 見士 松本 十三生 准尉 工藤 正衛	少尉 柳 一郎 曹長 大川 正夫 見士 内山 吉郎 曹長 菊地 正吉	少尉 藤田 政次 曹長 志谷 義仁 見士 平林 七郎 曹長 藤田 賢
	約114	約114	約135
	右同	右同	右同
	右同	右同	(多) 右同
	なし	なし	なし
	なし	なし	なし
	作業第六大隊の六ヶ中隊に 分位編入	作業第六大隊第六中隊に 分位編入	作業第六大隊第六中隊に 分位編入
	約114	約114	約135
	なし	なし	なし
	7名	7名	8名



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0222  
0223  
0224

第四四軍第六三師團 部隊名 獨立歩兵第七八大隊(一)  
通稱號 陣二一九九三  
郵便所名

全般概要	轉入	轉出	員入制編	隊別	隊長名	開入	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ返の變動	入ソ人員	滿洲殘留	
一四、七、二三、宇都宮にて編成 一八、五、一、政務 二〇、六、二五、北支隊定より通達隊本店に移駐 二〇、七、主力約七〇〇名熱河省討伐隊参加、一部甲田大隊以下各中隊より二〇名計一五〇名殘留 (主力) 二〇、八、四、四隊により討伐中の主力は奉天に退避せんとして錦縣集結中奉天二〇、八、二〇、錦縣飛行場にて食糧押留 二〇、八、二〇、錦縣飛行場にて食糧押留 二〇、八、二五、錦縣編成、第六大隊は編入、入ソ途中途亡一名 (遺失) <td>自一九、五、一 至二〇、二、一 歩兵二聯隊 一九名 自一九、五、一 至一九、八、一 歩兵三聯隊 一九名 自一九、八、一 至一九、八、一 歩兵三聯隊 一九名 自一九、八、一 至一九、八、一 歩兵三聯隊 一九名 自一九、八、一 至一九、八、一 歩兵三聯隊 一九名 自一九、八、一 至一九、八、一 歩兵三聯隊 一九名</td> <td>二〇、七、三一 至二〇、七、三一 歩兵一四〇隊 一四〇名 大石橋の歩兵 聯隊一四〇名 通化二〇〇名</td> <td>員入制編</td> <td>大 隊 本 部 中 隊 一 隊</td> <td>(阿久川起夫) 少佐 小田 二郎 副官 小田 二郎 中尉 土門 良祐 少尉 土屋 大重 曹長 矢野泰四郎 同 小野口 昆</td> <td>開入 時員</td> <td>駐屯地 平 時 戰 時</td> <td>店家錢 (力主) 中伐討省河熱 (部一屯官文)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>入ソ人員</td> <td>滿洲殘留</td>	自一九、五、一 至二〇、二、一 歩兵二聯隊 一九名 自一九、五、一 至一九、八、一 歩兵三聯隊 一九名 自一九、八、一 至一九、八、一 歩兵三聯隊 一九名 自一九、八、一 至一九、八、一 歩兵三聯隊 一九名 自一九、八、一 至一九、八、一 歩兵三聯隊 一九名 自一九、八、一 至一九、八、一 歩兵三聯隊 一九名	二〇、七、三一 至二〇、七、三一 歩兵一四〇隊 一四〇名 大石橋の歩兵 聯隊一四〇名 通化二〇〇名	員入制編	大 隊 本 部 中 隊 一 隊	(阿久川起夫) 少佐 小田 二郎 副官 小田 二郎 中尉 土門 良祐 少尉 土屋 大重 曹長 矢野泰四郎 同 小野口 昆	開入 時員	駐屯地 平 時 戰 時	店家錢 (力主) 中伐討省河熱 (部一屯官文)				入ソ人員	滿洲殘留

甲田大隊以下の殘留者は林少佐の指揮によつて「ハンタギ」に收容され、一月將校及び一部の下士官は「レンゲル」に收容された。

隊	中尉 大塚 一義 少尉 坂上 一 准尉 鈴木 信吉	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
---	---------------------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

トルキスタン地區  
ハンタギ  
レンゲル

12220  
02221  
02222  
02223  
02224

第四軍第六三師團 部隊名 獨立歩兵第七八大隊(一)

通稱號 陣一九九三

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人副編	
一四、七、三、宇部宮下 於て編成 一八、五、一、改編 二〇、六、二五、北支保定 より編成(家畜)の移駐 二〇、七、主力約七〇〇名 熱河省討伐隊参加、一部甲 田大尉以下各中隊より二〇 名計一五〇名發給 (主力) 二〇、八、四、開戦により 討伐中の主力は奉天に歸還 せんとして錦縣集結中終戦 二〇、八、二〇、錦縣飛行 場にて武裝解除 逃亡一名 二〇、八、二五、錦縣編成 第六大隊に編入、入一 途中逃亡一名 (殘部) 二〇、八、止、奉天に移動 七 獨歩一三七七 三三名		自一九五、一 九 至二〇〇、一 歩兵二聯隊 一九名 自一九五、一 九 至一九八、一 四 歩兵三聯隊 一九名 自一九四、八、 五 至一九一四、 二 歩兵六六聯隊 七一九名	二〇、七、三 逃亡一三〇名 四、一、四 大石橋の歩兵 聯隊一四名 通化へ二〇名	1283名	
第三	第二	第一	大隊本部	隊長名	別隊
中尉 大塚 一義 少尉 坂上 信吉 准尉 鈴木 信吉	中尉 關口 藤次 准尉 人見 末多	中尉 白井 健作 少尉 木村 義雄 關口 亮介	(阿久刀川赴夫) 少佐 山田 二郎 副官 小田 良補 中尉 土門 良補 少尉 土屋 大重 曹長 矢野 泰四郎 同 小野口 昆	( )内は先代を不示す	別隊 駐屯地 戰鬥間の狀況及損耗 終戦後の人員變動 作業大隊より 入「ソ」迄の變動 入「ソ」人員 隊別計 滿洲殘留 收容名
右同	右同	右同	店家錢	時員	戰鬥時間
右同	右同	右同	(力主) 中伐討省河熱 (部一屯官文)	平時	戰鬥時間
				戰時	戰鬥時間

大塚 一義  
坂上 信吉  
鈴木 信吉  
關口 藤次  
人見 末多  
白井 健作  
木村 義雄  
關口 亮介  
山田 二郎  
小田 良補  
土門 良補  
土屋 大重  
矢野 泰四郎  
小野口 昆

トルキスタン地區  
トルキスタン(一)  
トルキスタン(二)

1283名				編制人員	部隊名
中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大	別隊	獨立歩兵第七八大隊(一)
中尉 大塚 一義 少尉 坂上 一義 准尉 鈴木 信吉	中尉 關口 藤次郎 准尉 人見 天彦	中尉 白井 健作 少尉 木村 亮介 關口 亮介	(阿久刀川赴夫) 少佐 小田 二郎 副官 小田 良補 中尉 土門 良補 少尉 土屋 太重 曹長 矢野泰四郎 同 小野口 昆	隊長名 (内は先代を不示す)	
右 同	右 同	右 同	店家銭	戦開入 時員	駐屯地
右 同	右 同	右 同	(力主) 中伐討省河熱 (部一屯官文)	戦時	地
				戦闘間の状況及損耗	
				終戦後の人員變動	
				作業大隊より 入ソ返の變動	
				隊別 計	入ソ人員
				滿洲残留	
				收容所名 トルキスタン地區 トルキスタン	收容所
				所入 死亡	所
				滿洲ソ領 より	歸還人員
				計	者
				数	状況不明

通稱號 陣二九九三

郵便所名

				一八、五、一、改竄 二〇、六、二五、北支保定 二〇、七、主力約七〇〇名 熱河省討伐隊参加、一部中 田大隊以下各中隊より二〇 名計一五〇名残留 (主力) 二〇、八、四、開戦により 討伐中の主力は奉天に帰還 せんとして錦線集結中隊隊 二〇、八、二〇、錦線飛行 隊より二名 二〇、八、二五、錦線編成 第六大隊は編入、入「ソ」 途中途一名 (要員) 二〇、八、七、奉天に移動 歩兵三隊 自一九五、一 至一九八、一 歩兵三隊 自一四、八、 至一九、一四、 歩兵六六編成 充隊 七一九名	公大編成 九二〇名 歩兵三隊 一九九名 自一九五、一 至一九八、一 歩兵三隊 一九九名 大石橋の歩兵 隊一四八名 通化(二〇〇名)
中尉 清水 敏 准尉 和田 勉	中尉 大塚 一義 少尉 坂上 信吉 准尉 鈴木 信吉	中尉 関口 藤次	中尉 関口 藤次	中尉 岡井 健作 少尉 木村 泰彦 關口 亮介	(要員) 八戸(五六) 少佐 坂田 二郎 副官 八戸 良輔 中尉 土門 太重 少尉 土屋 太重 警長 矢野 泰四郎 同 小野口 晃
隊 中 四 第	隊 中 三 第	隊 中	隊 中 一 第	隊 中 一 第	部 本 隊 大
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	店 家 錢
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	(力主) 中 伐 討 省 河 熱 (部 一 屯 官 文)

中田大隊以下  
 一月中に二十名  
 以上を「ハンダギ」  
 収容した。其の他  
 は「レンゲル」収容

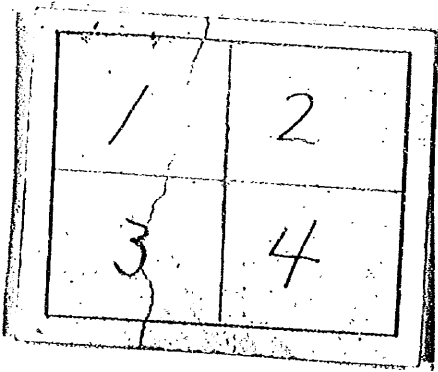
隊 中 四 第	隊 中 三 第	隊 中	隊 中 一 第	部 本 隊 大
中尉 清水 藤三郎 准尉 和田 勉	中尉 大塚 一義 少尉 坂上 信吉 准尉 鈴木 信吉	中尉 関口 藤次 准尉 人見 下	中尉 白井 健作 少尉 木村 義彦 少尉 関口 亮介	(河久万川蔵夫) 少佐 山田 二郎 中尉 土門 良輔 少尉 土屋 太童 曹長 矢野泰四郎 同 小野口 昆
右 同	右 同	右 同	右 同	店 家 銭
右 同	右 同	右 同	右 同	(力主) 中 伏 討 省 河 蘇 (部 一 電 官 文)

下士官は「レンゲル」收容  
の指揮によつて「パンタギ

トルキスタン地區  
ハンタギ  
(M/161)  
(M/162)

トルキスタン

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0223  
0222  
0221

第四四軍第六三師團 部隊名 獨立歩兵第七八大隊(二) 通稱號 陣二九九三

郵便所名

全般概要

二〇、八、五、大森宮内  
下八名(三〇旅團) 陸地等  
築港路の島田登、一三〇旅  
團と共に八、一五、武原  
爾後一三〇旅團と同行動、  
奉天作業一六大隊として入  
ソ

二〇、八、一八、文官屯に  
て武備向武備迄に於る逃亡  
約二〇名  
二〇、九、一、北段にて第  
九作業大隊編成入ソト  
ルキスタン進軍

轉入 轉出  
十九年以降 十九年以降

員入編編

別 隊

隊長名  
(内は先代を不す)  
大尉 甲田初重郎

戰人員  
時員

駐屯地  
平時 戰時

戦斗間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より入ソ返の變動

隊別計

入ソ人員

滿洲残留

第五中隊

中尉 徳富 秀夫  
少尉 清水 喜八郎  
准尉 山出 一夫

右 同

右 同

機械中隊

中尉 伊勢田傳司

右 同

右 同

步兵中隊



隊中砲兵歩			隊中銃關機			隊中五第			員人制編
中尉 伊勢田傳司			中尉 德富秀夫 少尉 清水喜八郎 准尉 山田一夫			大尉 甲田初重郎			別 隊
右 同			右 同			店家錢			關人 時員
右 同			右 同			(力主) 中伐討省河熱 (部一) 屯官文			駐 屯 地 時 數 時
戦闘間の状況及損耗									
終戦後の人員變動									
作業大隊より 入ソノ返の變動									
隊別 入ソノ人員 計									
滿洲殘留									
收容所名									
收容所									
死亡									
滿洲ソノ額									
計									
者 狀況不明 數									

部隊名 獨立歩兵第七八大隊(二)

通稱號 陣二九九三

郵便所名

二〇、八、一八、文官地  
二〇、九、一、特設下等  
九作業大塚新入「イ」イ  
ルキヌタン地蔵

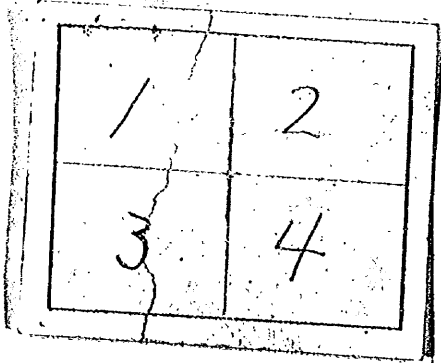
二〇、八、一八、文官地  
二〇、九、一、特設下等  
九作業大塚新入「イ」イ  
ルキヌタン地蔵

二〇、九、一、特設下等  
九作業大塚新入「イ」イ  
ルキヌタン地蔵

隊中五第	隊中銃關機	隊中砲兵歩
大尉 田中 武雄	中尉 徳富 秀夫 少尉 清水 喜八郎 准尉 山田 一夫	中尉 伊勢田 傳司
右 同	右 同	右 同
(力主) 中校 佐藤 義雄 (第一) 佐野 文	右 同	右 同

	隊中砲兵歩	隊中銃關機	隊中三第
	中尉 伊勢田傳司	中尉 徳富秀夫 少尉 清水八郎 准尉 山出一夫	大尉 三浦三郎
	右 同	右 同	左 家紋
	右 同	右 同	(力主) 中位諸省河祭 (海一) 高宮文

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0230  
0231  
0232

第四四軍第六三師團 部隊名 獨立歩兵第七九大隊(一)

通稱號 陣二一九九四

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	人員制編		別隊		駐屯地		戦闘間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より入ソ返の變動		入ソ人員		滿洲残留			
一四、六、三三、編成 一八、五、一、七、中隊大 改裝 一八、六、三〇、編成完結 於北支隊 二〇、六、一五、滿州移駐 の爲北支隊與發 二〇、六、一九、又並羅大 林村到着 二〇、八、一二、開戦によ り奉天附近防衛の爲東後一 家溝に移動陣地構築中終戦 二〇、八、二〇、文官屯に 二〇、九、一、北隊に收容 同地收容中逃亡二名		十九年以降 一九、一、二九 歩兵六六隊 一三六名 自一九、一、 一〇 至二〇、六、九 獨歩七九大隊 二九名	十九年以降 一九、一、二九 歩兵六六隊 一三六名 自一九、一、 一〇 至二〇、六、九 獨歩七九大隊 二九名	1283名		大隊本部 少尉 相川 泰造 副官 下山 雄吉 少尉 小林 輝 少尉 小林 英雄 中尉 藤原 三郎 中尉 久松 隆之 中尉 藤原 泰造		大隊本部 少尉 相川 泰造 副官 下山 雄吉 少尉 小林 輝 少尉 小林 英雄 中尉 藤原 三郎 中尉 久松 隆之 中尉 藤原 泰造		駐屯地 村林大縣遼双 屯官文		戦闘間の状況及損耗 なし		終戦後の人員變動 なし		作業大隊より入ソ返の變動 なし		入ソ人員 なし		滿洲残留 なし	
第三中隊 中尉 田代 博 中尉 市川 豊 少尉 鈴木 正治		第二中隊 中尉 松崎 敏雄 中尉 野村 三		第一中隊 少尉 相川 泰造		大隊本部 少尉 相川 泰造 副官 下山 雄吉 少尉 小林 輝 少尉 小林 英雄 中尉 藤原 三郎 中尉 久松 隆之 中尉 藤原 泰造		駐屯地 村林大縣遼双 屯官文		戦闘間の状況及損耗 なし		終戦後の人員變動 なし		作業大隊より入ソ返の變動 なし		入ソ人員 なし		滿洲残留 なし			

インクボックス第十  
一收容所第二分所

アチサイ收容所

インクボックス第十  
一收容所

中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 大	別 隊
中尉 田代 博 中尉 市川 豊 少尉 鈴木 正治	中尉 松崎 敏雄 少尉 新井 洋二	少尉 相川 泰造	少佐 矢萩留治 副官 下山 雄吉 少尉 小林 輝 中尉 小林 泰雄 中尉 藤原 三郎 少尉 久我 隆之 少尉 斎藤 隆一	隊 長 名 ( )内は先代を示す
右 同	右 同	右 同	村林六縣遼双	開入 時 員
右 同	右 同	右 同	屯官文	駐 屯 地 平 時 戦 時
なし	なし	なし	なし	戦 斗 間 の 状 況 及 損 耗
				終 戦 後 の 人 員 變 動
				作 業 大 隊 以 前 入「ソ」迄の變動
				入「ソ」人員 隊 別 計
				滿 洲 殘 留
イルクーツク第十 一收容所第二分所	アチサイ收容所	イルクーツク第十 一收容所	ウソリヤ第一九收 容所	收 容 所 名
				所 入 死 亡
				滿 洲 領 土 以 外 領 土 以 内
				計 者 數

隊 名 獨 立 歩 兵 第 七 九 大 隊 (一)

通 稱 號 陣 二 九 九 四

郵 便 所 名



隊中四第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大
<p>少尉 平間 俊道 少尉 油日 進 少尉 久保田 宗</p>	<p>中尉 田代 博 少尉 市川 豊 少尉 鈴木 正治</p>	<p>中尉 松崎 敏雄 少尉 新川 洋三</p>	<p>少尉 相川 泰造</p>	<p>少佐 大塚 浩三 副官 下田 雄吉 少尉 小森 海 少尉 山本 茂徳 少尉 藤田 義之 少尉 大塚 隆三 少尉 藤田 泰三</p>
右同	右同	右同	右同	村林 六郎 滋次
右同	右同	右同	右同	高宮 文
なし	なし	なし	なし	なし
	<p>イラク トラック 第十 一 收容所 第二分所</p>	アチナイ 收容所	<p>イラク トラック 第十 一 收容所</p>	ウソリヤ 第一 九 收容所